

事業評価票

171 臨港道路の照明LED化工事
(港湾局東京港管理事務所／一般会計)

事業開始	平成 27 年度
事業終了予定	平成 32 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何をを目指すのか

- 東京港は、首都圏4,000万人の生活と産業を支える一大物流拠点として重要な役割を果たしている。
- 港湾局では東京港の港湾物流を増進・効率化する臨港道路の整備及び管理運営を行っている。対象施設は、道路のほかレインボーブリッジ・東京ゲートブリッジ等の橋梁、臨海トンネル・第二航路海底トンネル等の海底トンネルがある。
- 各施設においては海底トンネル照明、街路灯及び橋梁灯を設置し、施設の効率のかつ安全な利用に努めている。

根拠法令等 港湾法、東京都港湾管理条例

2 どのように取り組み、どのような成果があったか

- 海底トンネル照明、街路灯及び橋梁灯等の電気・機械の設備に関しては、照明設備のみならず、交通管制設備、防災設備、換気設備、受変電設備、昇降施設等多種複合的なものが多く、細心の注意のもと迅速かつ的確に維持補修を実施している。
- 照明設備を良好な状態に維持するため、年間を通して点検及び交換を行っている。点検の際、不良個所が判明した場合には早急に対応している。

3 どのような課題や問題点があったか

- 海底トンネル照明設備については、現在ナトリウム灯を使用しており、光熱水費の負担が大きくなっている。
- LED照明器具の製品化が進んできたことに伴い、省エネルギー化へ向け、計画的に照明のLED化工事を進めていく必要がある。

4 局として、事業をどうしていきたいか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
-------	---------	-------	-----

○ 海底トンネルの照明設備を、省エネ効果が高いLED照明に交換することで、電気料金を削減するとともに環境負荷の低減を図る。平成28年度は、第二航路海底トンネルの実施設計、青海トンネルの工事を行う。

《青海トンネルのLED化によるコスト効果(17年目)》 (単位:千円)

	イニシャルコスト		ランニングコスト		総額
	機器更新	光熱水費	ランプ交換		
LED照明	237,588	73,150	43,639	354,377	
ナトリウム灯	150,000	122,676	82,644	355,320	
増(△)減	87,588	△ 49,526	△ 39,005	△ 943	

ランプ交換: LEDは10年に1度、ナトリウム灯は1年4ヵ月ごと交換

歳入	26年度決算額	— 千円	歳出	26年度決算額	— 千円
	27年度予算額	— 千円		27年度予算額	119,588 千円
	28年度見積額	— 千円		28年度見積額	125,500 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか

- LED照明はナトリウム灯に比べ消費電力が少なく、定格寿命も長いことから、交換は妥当である。
- 機器更新に係る経費はLED照明の方が割高となるが、光熱水費等が削減されることにより、設置から17年目には経費縮減が図られる見込みとなっている。

6 28年度予算で、どのように対応したか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他
-------	---------	-------	-----

○ LED照明に交換することにより、経費の縮減が見込まれることから、見積額のとおり計上する。

歳入	28年度予算額	— 千円
歳出	28年度予算額	125,500 千円